

新しいクルマ社会の未来を切り開く活動

新明工業

新明工業（近藤恭弘社長、愛知県豊田市）は、「鑑古考新」をテーマに、オールドカ―を後世に伝える活動と新しいクルマ社会の未来を切り開く活動に尽力している。

同社は、1948年から自動車整備業を始めた。59年には初代クラウンであるトヨペット・クラウンを静岡市の販売店へ輸送するため、日本で初めての積載車を制作した。後にクルマの文化を後世に伝える活動としてレストア事業を始め、94年トヨタ産業技術

記念館の開館に携わり、その開館前後にわたり約170台ものレストアを完了させた。同社は、作業としてとらえるのではなく、日本のクルマ文化を未来に伝えるお手伝いをさせていただいているという思いで、長年にわたりレストア事業に取り組んできた。

クルマの文化を創る活動としては、65年代当時車検が2〜3日かけて行われることが主流だったが、多くの協議、改善を重ね、車種を絞り1日安心安全かつ早期の整備の先駆者となった。



その後も自動交通規制車「ロボカー」の開発や東京モーターショーでの展示を通し活躍の場を広げた。近年では「こどもレストア教室」や「こどもお仕事体験」で、車のファンづくりや人づくりに貢献し、こどもたちにも多様な職業

レストア通し地域社会と共に成長

選択のきっかけづくりを提供している。

同社は、クルマ中心に地域社会と共に成長し続けることを使命としている。今までの技術を大切にしながらも変化する環境に対応し、常に一歩先を見据えた取り組みを柔軟に進める。これからもクルマ社会の未来に向けて、さらなる貢献を果たしていく。



【受賞者コメント】この度は、自動車ユーザー連携賞を受賞させていただき、心より感謝申し上げます。私たち新明工業は、クルマの文化を未来へ繋ぎクルマ社会を楽しく安全にすることを目指し、過去の技術や思いを未来へ結びつける取り組みを行っております。今後も自動車業界と地域社会の発展に貢献できるよう、さらなる努力を続けてまいります。皆様のご期待に応えられるよう、引き続き精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。